安全データシート

1. 製品及び会社情報　追記

販売会社名	：株式会社理研グリーン
住所	：東京都台東区東上野四丁目8番1号
担当部門	：開発部企画開発課
電話番号	：03－6802－8587
FAX 番号	：03－6802－8303
推奨用途及び使用上の制限	：農薬

本製品に関するその他の情報については、次ページ以降を参照してください。

安全データシート

プロキシ液剤　Proxy SL

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日:2023/10/03
2.0	2024/05/28	11280109-00002	初回作成日:2023/10/03

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称　：　プロキシ液剤　Proxy SL

製品コード　：　Article/SKU: 80503407 UVP: 05927285 Specification: 102000004255

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称　：　Environmental Science Japan K.K.
エンバイロサイエンスジャパン株式会社
1-6-1 Otemachi, Chiyoda

住所　：　東京都千代田区大手町一丁目６番１号
Tokyo, Japan

電話番号　：　03-4570-8758

電子メールアドレス　：　johji.ohdake@envu.com

緊急連絡電話番号　：　+65 3163 8374
Toll Free: 0800-300-5842

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途　：　成長抑制剤

使用上の制限　：　制限については、製品ラベルを参照してください。

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

皮膚腐食性／刺激性　：　区分 2

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性　：　区分 1

水生環境有害性 短期（急性）　：　区分 3

水生環境有害性 長期（慢性）　：　区分 3

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル　：

注意喚起語　：　危険

危険有害性情報　：　H315 皮膚刺激。
H318 重篤な眼の損傷。
H412 長期継続的影響によって水生生物に有害。

注意書き　：

安全対策:

P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。
P273 環境への放出を避けること。
P280 保護手袋／保護眼鏡／保護面を着用すること。

応急措置:

P302 + P352 皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。
P305 + P351 + P338 + P310 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
P321 特別な処置が必要である（このラベルの補足的な応急処置の説明を見よ）。
P332 + P313 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。
P362 + P364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

廃棄:

P501 内容物／容器を承認された処理施設に廃棄すること。

GHS 分類に該当しない他の危険有害性

知見なし。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別　：　混合物

化学名又は一般名　：　水溶液剤（SL）

成分

化学名	CAS 番号	含有量 (% w/w)	官報公示整理番号

エテホン	16672-87-0	>= 20 - < 30	2-2930
塩化水素	7647-01-0	> 0 - < 10	1-215

4. 応急措置

一般的アドバイス　：　事故の場合や、気分がすぐれないときは直ちに医者の診察を受ける。
症状が長引く場合、または疑問がある場合は、医師の指示を受ける。

吸入した場合　：　吸い込んだ場合、新鮮な空気の場所へ移動する。
症状が現れる場合には医療機関で診察を受ける。

皮膚に付着した場合　：　接触した場合、直ちに多量の水で少なくとも 15 分間皮膚を洗い流しながら、汚染した衣服と靴を脱ぐ。
医療処置を受ける。
再使用の前に衣服を洗う。
靴を再使用する前に完全に洗う。

眼に入った場合　：　接触した場合、直ちに多量の水で少なくとも 15 分間目を洗い流す。
簡単にできる場合には、コンタクトレンズを取り外す。
直ちに医師の手当てを受ける。

飲み込んだ場合　：　飲み込んだ場合、無理に吐かせない。
症状が現れる場合には医療機関で診察を受ける。
水で口をよくすすぐ。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状　：　知られていないか予想されない症状。
皮膚刺激。
重篤な眼の損傷。

応急措置をする者の保護　：　救命救急要員は自らの安全に注意を払い、推奨されている保護衣を使用すること。曝露の可能性がある場合は、項目 8 の適切な個人保護具を参照のこと（項目 8 を参照）。

医師に対する特別な注意事項　：　専用解毒剤は入手できない。
症状に応じた治療を行う。
禁忌：アトロピン。
胃洗浄は通常必要ありません。 しかし、多量（一口以上）に摂取した場合は、活性炭と硫酸ナトリウムを投与してください。
原液のエテフォンを経口摂取した後、治療は酸摂取の投薬計画に従う必要があります。
患者の状態に応じて適切な支持療法及び対症療法が推奨され

る。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	:	水噴霧 耐アルコール泡消火剤 二酸化炭素（CO2） 粉末消火剤
使ってはならない消火剤	:	大型棒状の水
特有の危険有害性	:	燃焼生成物への曝露は健康に害を及ぼす場合がある。
有害燃焼副産物	:	塩素化合物 リンの酸化物 炭素酸化物
特有の消火方法	:	現場の状況と周辺環境に応じて適切な消火手段を用いる。 未開封の容器を冷却するために水を噴霧する。 安全であれば未損傷コンテナを火災領域から離す。 区域から退避させること。
消火を行う者の保護	:	火災時には、自給式呼吸器を着用する。 保護具を使用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	:	保護具を使用する。 安全な取り扱いのアドバイス（項目 7 を参照）や、個人保護具の推奨事項に準拠（項目 8 を参照）。
環境に対する注意事項	:	環境への放出を避けること。 安全を確認してから、もれやこぼれを止める。 広範囲に広まるのを防ぐ（封じ込めまたはオイルバリアなどによる）。 汚染された洗浄水を保管し、処分する。 流出が著しく回収できない場合は、地方自治体に通報する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	:	不活性な吸収材で吸収させる。 多量にこぼれた場合、防液堤を築く等の適切な封じ込め手段を講じて、広がらないようにすること。防液堤に使用した資材をポンプで吸い上げることができる場合には、回収した物質を適切な容器内に保管する。 漏洩物質を適切な吸収剤で除去すること。 本製品を放出、廃棄する際には、各地方自治体および国の規則に従って処理すること。その放出に使用された物質につい

ても同様である。どの規則が適用されるかを確認する必要がある。
本 SDS の項目 13 および 15 において、地方自治体および国の法規制の記載あり。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	:	ばく露防止及び保護措置の項の設備対策を参照。
局所排気，全体換気	:	適切な換気装置の下でのみ使用する。
安全取扱注意事項	:	皮膚や衣服に付けない。 蒸気やミストの吸い込みを避けること。 飲み込まない。 眼との接触を避ける。 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。 職場曝露調査の結果に基づき、産業性の衛生および安全性の実行規定に従い取り扱うこと 容器を密閉しておくこと。 水に近づけないようにする。 防湿する。 漏れや廃棄物を防止し、環境への放出を最小限にするよう注意する。
接触回避	:	酸化剤 塩基類 水
衛生対策	:	通常の使用中に化学物質へのばく露の可能性がある場合は、作業場所の近くにアイフラッシングシステムおよび安全シャワーを設置してください。 使用中は飲食及び喫煙を禁止する。 汚染された衣服は再使用する前に洗濯すること。

保管

安全な保管条件	:	適切なラベルのついた容器に入れておく。 栓をしっかり閉める。 各国の規定に従って保管する。 大部分の金属と反応して水素ガスが発生し、空気中で爆発性混合物を形成することがある。保管中に、ドラム缶等の鋼鉄製容器やタンク内で、可燃性の高い水素ガスが爆発性濃度まで濃縮されることがある。

混触禁止物質	:	次の製品種類といっしょに保管しない： 強酸化剤
安全な容器包装材料	:	適さない材質:知見なし。

8. ばく露防止及び保護措置

作業環境における成分別暴露限界/許容濃度

成分	CAS 番号	指標 (暴露形態)	管理濃度 / 基準濃度 / 許容濃度	出典
塩化水素	7647-01-0	OEL-C	2 ppm 3 mg/m³	日本産業衛生学会（許容濃度）
		C	2 ppm	ACGIH

分解生成物の労働衛生上の露出限度

成分	CAS 番号	指標 (暴露形態)	管理濃度 / 許容濃度	出典
エチレン	74-85-1	TWA	200 ppm	ACGIH
リン酸	7664-38-2	OEL-M	1 mg/m³	日本産業衛生学会（許容濃度）
		TWA	1 mg/m³	ACGIH
		STEL	3 mg/m³	ACGIH

設備対策 : 処理により危険有害化合物が発生することがある（項目 10 を参照）。
特に、閉所では十分な換気の確保が必要。
作業場における曝露濃度を最低限に抑えること。

保護具

呼吸用保護具 : 適切な局所排気装置が利用できない場合、またはばく露評価で推奨ガイドラインの範囲外のばく露が示された場合は、呼吸保護器具を使用しましょう。

フィルタータイプ : 自給式呼吸器

手の保護具

材質	:	ニトリルゴム
破過時間	:	> 480 min
手袋の厚さ	:	> 0.4 mm
防護指数	:	クラス 6

備考	:	危険物質の濃度や量により、作業場に合った化学物質防護手袋を選ぶこと。 特殊作業に使用する上記の手袋の耐化学物質性を手袋の製造元に問い合わせることを推奨する。 休憩前や終業時には手を洗う。
眼の保護具	:	次の個人保護具を着用する： 耐化学薬品性の保護眼鏡を必ず着用する。 飛散が起こりそうな場合に着用： フェイスシールド
皮膚及び身体の保護具	:	化学的耐性データおよび局所における曝露可能性の評価に基づいて適切な保護衣を選択すること。 不浸透性の保護衣（手袋、前掛け、長靴など）を使用することで皮膚への接触を避ける。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	:	液体
色	:	無色，褐色
臭い	:	特徴的
臭いのしきい(閾)値	:	データなし
融点／凝固点	:	-5 ° C
沸点又は初留点及び沸騰範囲	:	データなし
可燃性（固体、気体）	:	非該当
可燃性（液体）	:	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界		
爆発範囲の上限 / 可燃上限値	:	データなし
爆発範囲の下限 / 可燃下限値	:	データなし
引火点	:	引火前に沸騰する

分解温度	:	170 ° C
pH	:	約 0.8 (23 ° C) 含有量: 100 % （未希釈）
蒸発速度	:	データなし
自然発火温度	:	データなし
粘度		
動粘度（動粘性率）	:	データなし
溶解度		
水溶性	:	可溶
n-オクタノール／水分配係数（log 値）	:	非該当
蒸気圧	:	< 0.013 hPa (25 ° C)
密度及び／又は相対密度		
密度	:	約 1.11 g/cm³ (20 ° C)
相対ガス密度	:	データなし
爆発特性	:	非爆発性
酸化特性	:	本製品は酸化性物質としては分類されない。
粒子特性		
粒子サイズ	:	非該当

10. 安定性及び反応性

反応性	:	反応性危険としては分類されない。
化学的安定性	:	通常の状態では安定。
危険有害反応可能性	:	強い酸化剤と反応することがある。 水分又は湿気との接触により有害な分解生成物が生成される。

避けるべき条件　：　湿気への暴露。

混触危険物質　：　酸化剤
塩基類
水

危険有害な分解生成物
水分又は湿気との接触　：　エチレン
リン酸

11. 有害性情報

可能性のある暴露経路の情報　：　吸入
皮膚接触
摂取
眼に入った場合

急性毒性

利用可能な情報に基づく限り分類できない。

製品:

急性毒性（経口）　：　LD50 (ラット): 4,400 mg/kg

急性毒性（吸入）　：
急性毒性推定値:: > 5 mg/l
曝露時間: 4 h
試験環境: 粉じん/ミスト
方法: 計算による方法

急性毒性（経皮）　：　LD50 (ウサギ): > 2,000 mg/kg

成分:

エテホン:

急性毒性（経口）　：　LD50 (ラット, メス): 1,564 mg/kg
方法: OECD 試験ガイドライン 401

急性毒性（吸入）　：　LC50 (ラット): 3.26 mg/l
曝露時間: 4 h
試験環境: 粉じん/ミスト
方法: OECD 試験ガイドライン 403
アセスメント: 呼吸器官に腐食性である。

急性毒性（経皮）　：　LD50 (ウサギ, メス): 983 mg/kg
方法: OECD 試験ガイドライン 402

塩化水素:

急性毒性（吸入）	:	LC50 (ラット): 8.3 mg/l 曝露時間: 30 min 試験環境: 粉じん/ミスト

皮膚腐食性／刺激性

皮膚刺激。

製品:

種	:	ウサギ
結果	:	皮膚刺激性

成分:

エテホン:

種	:	ウサギ
結果	:	1～4 時間接触すると腐食性がある

塩化水素:

種	:	再生ヒト表皮（RhE）
方法	:	OECD 試験ガイドライン 431
結果	:	3 分以下の暴露で腐食性

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

重篤な眼の損傷。

製品:

種	:	ウサギ
結果	:	眼に対する不可逆的影響

成分:

エテホン:

結果	:	眼に対する不可逆的影響
備考	:	皮膚腐食性に基づく。

塩化水素:

種	:	ウシ角膜
方法	:	OECD 試験ガイドライン 437
結果	:	眼に対する不可逆的影響

呼吸器感作性又は皮膚感作性

皮膚感作性

利用可能な情報に基づく限り分類できない。

呼吸器感作性

利用可能な情報に基づく限り分類できない。

成分:

塩化水素:

試験タイプ	:	マキシマイゼーション試験
暴露の主経路	:	皮膚接触
種	:	モルモット
方法	:	OECD 試験ガイドライン 406
結果	:	陰性

生殖細胞変異原性

利用可能な情報に基づく限り分類できない。

成分:

エテホン:

in vitro での遺伝毒性	:	試験タイプ:微生物を用いる復帰突然変異試験(AMES) 結果:陰性 試験タイプ:in vitro 哺乳動物細胞遺伝子変異試験 結果:陰性 試験タイプ:in vitro 染色体異常試験 結果:陰性

塩化水素:

in vitro での遺伝毒性	:	試験タイプ:サッカロミセス・セレビシエ（Saccharomyces cerevisiae）、縮瞳再組換えアッセイ（in vitro） 結果:陰性

発がん性

利用可能な情報に基づく限り分類できない。

成分:

エテホン:

種	:	マウス
投与経路	:	飲み込んだ場合

曝露時間	:	78 週
結果	:	陰性

塩化水素:

種	:	ラット
投与経路	:	吸入
曝露時間	:	128 週
結果	:	陰性

生殖毒性

利用可能な情報に基づく限り分類できない。

成分:

エテホン:

妊娠に対する影響	:	試験タイプ:二世代生殖毒性試験 種:ラット 投与経路:飲み込んだ場合 方法:OECD 試験ガイドライン 416 結果:陰性
胎児の発育への影響	:	試験タイプ:受精卵および胎児発育 種:ラット 投与経路:飲み込んだ場合 方法:OECD 試験ガイドライン 414 結果:陰性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

利用可能な情報に基づく限り分類できない。

成分:

塩化水素:

アセスメント	:	呼吸器への刺激のおそれ。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

利用可能な情報に基づく限り分類できない。

成分:

エテホン:

アセスメント	:	濃度範囲 100 mg/kg bw 以下では動物における重大な健康への悪影響は無かった。

反復投与毒性

成分:

エテホン:

種	:	マウス
NOAEL	:	22 mg/kg
LOAEL	:	69 mg/kg
投与経路	:	飲み込んだ場合
曝露時間	:	28 Days

誤えん有害性

利用可能な情報に基づく限り分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

成分:

エテホン:

魚毒性	:	LC50 (Oncorhynchus mykiss（ニジマス)): 47 mg/l 曝露時間: 96 h
ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性	:	EC50 (Daphnia magna（オオミジンコ)): > 1,000 mg/l 曝露時間: 48 h 方法: OECD 試験ガイドライン 202
藻類／水生生物に対する毒性	:	ErC50 (Lemna gibba（イボウキクサ)): > 1.6 mg/l 曝露時間: 14 d ErC50 (Lemna gibba（イボウキクサ)): > 1.6 mg/l 曝露時間: 72 h EC10 (Lemna gibba（イボウキクサ)): 0.21 mg/l 曝露時間: 14 d EC10 (Lemna gibba（イボウキクサ)): 0.21 mg/l 曝露時間: 72 h
魚毒性 (慢性毒性)	:	最大無影響濃度 (Pimephales promelas（ファットヘッドミノウ)): 43 mg/l 曝露時間: 34 d 方法: OECD 試験ガイドライン 210
ミジンコ等の水生無脊椎動物	:	最大無影響濃度 (Daphnia magna（オオミジンコ)): 67 mg/l

に対する毒性(慢性毒性)	曝露時間:21 d

残留性・分解性

データなし

生体蓄積性

成分:

エテホン:

n-オクタノール／水分配係数（log 値）	: log Pow:-1.89

土壌中の移動性

データなし

オゾン層への有害性

非該当

他の有害影響

データなし

13. 廃棄上の注意

廃棄方法

残余廃棄物	:	ラベルの指示に従って、すべての製品を使用することをお勧めします。 未使用の製品を処分する必要がある場合は、コンテナのラベルの指示と該当する現地のガイドラインに従ってください。 廃棄物を下水へ排出してはならない。
汚染容器及び包装	:	製品ラベルおよび/またはチラシのアドバイスに従ってください。 残留物の残る空の容器は危険な可能性があります. 空の容器を再使用しない。

14. 輸送上の注意

国際規制

陸上輸送(UNRTDG)

国連番号	:	非該当
国連輸送名 (Proper shipping name)	:	非該当
国連分類 (Class)	:	非該当

副次危険性 (Subsidiary risk) : 非該当
容器等級 (Packing group) : 非該当
ラベル (Labels) : 非該当
環境有害性 : 非該当

航空輸送(IATA-DGR)

UN/ID 番号 (UN/ID number) : 非該当
国連輸送名 (Proper shipping name) : 非該当
国連分類 (Class) : 非該当
副次危険性 (Subsidiary risk) : 非該当
容器等級 (Packing group) : 非該当
ラベル (Labels) : 非該当
梱包指示（貨物機） (Packing instruction (cargo aircraft)) : 非該当
梱包指示（旅客機） (Packing instruction (passenger aircraft)) : 非該当

海上輸送(IMDG-Code)

国連番号 : 非該当
国連輸送名 (Proper shipping name) : 非該当
国連分類 : 非該当
副次危険性 : 非該当
容器等級 : 非該当
ラベル : 非該当
EmS コード : 非該当
海洋汚染物質(該当・非該当) : 非該当

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質（該当・非該当）

供給された状態の製品には非該当。

国内規制

国の特定の法規制は、項目 15 を参照する。

特別の安全対策

非該当

15. 適用法令

関連法規

消防法

危険物、指定可燃物に該当しない。

化審法

特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質に該当しない。

労働安全衛生法

製造等が禁止される有害物

非該当

製造の許可を受けるべき有害物

非該当

健康障害防止指針公表物質

非該当

変異原性の認められた化学物質（既存化学物質）

非該当

変異原性の認められた化学物質（新規届出化学物質）

非該当

名称等を通知すべき危険物及び有害物

法第 57 条の 2（施行令別表第 9）

化学名	含有量 (%)	備考
エテホン	>=20 - <30	2025 年 4 月 1 日以降
塩化水素	>0 - <10	-

名称等を表示すべき危険物及び有害物

法第 57 条（施行令第 18 条）

化学名	備考
エテホン	2025 年 4 月 1 日以降

がん原性物質（労働安全衛生規則第 577 条の２）

非該当

特定化学物質障害予防規則

非該当

鉛中毒予防規則

非該当

四アルキル鉛中毒予防規則

非該当

有機溶剤中毒予防規則

非該当

労働安全衛生法施行令 - 別表第一（危険物）

非該当

毒物及び劇物取締法

非該当

化学物質排出把握管理促進法

非該当

高圧ガス保安法

非該当

火薬類取締法

非該当

船舶安全法

危険物として規制されていない

航空法

危険物として規制されていない

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律

ばら積み輸送	:	有害液体物質には該当しない
個品輸送	:	海洋汚染物質には該当しない

麻薬及び向精神薬取締法

麻薬向精神薬原料（輸出・輸入許可）
非該当
特定麻薬向精神薬原料（輸出・輸入許可）
非該当

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

特別管理産業廃棄物

活性物質	:	240 g/l エテホン

16. その他の情報

本 SDS において労働安全衛生法の通知対象物質の濃度が幅表示の場合は、営業秘密である場合を含みます

詳細情報

引用文献	:	自社技術データ、原材料 SDS に基づくデータ、 OECD eChem ポータルおよび欧州化学物質局 http://echa.europa.eu/の検索結果

以前バージョンから変更された項目は本文書では 2 本線で強調表示されています。

日付フォーマット	:	年/月/日

その他の略語の全文

ACGIH	:	米国。 ACGIH 限界閾値 (TLV)
日本産業衛生学会 (許容濃度)	:	日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告 -I. 化学物質の許容濃度
ACGIH / TWA	:	8 時間、時間加重平均
ACGIH / STEL	:	短時間暴露限界
ACGIH / C	:	天井値
日本産業衛生学会 (許容濃度) / OEL-M	:	許容濃度
日本産業衛生学会 (許容濃度) / OEL-C	:	最大許容濃度

AIIC - オーストラリアの工業化学品インベントリ; ANTT - ブラジル国家輸送機関; ASTM - 米国材料試験協会; bw - 体重; CMR - 発ガン性、変異原性、生殖毒性があるとされる物質; DIN - ドイツ規格協会基準; DSL - 国内物質リスト (カナダ); ECx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる濃度; ELx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる負荷割合; EmS - 緊急時のスケジュール; ENCS - 化審法の既存化学物質リスト; ErCx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる成長率; ERG - 緊急対応の手引き; GHS - 世界調和システム; GLP - 試験実施規範; IARC - 国際がん研究機関; IATA - 国際航空運送協会; IBC - 危険化学品のばら積運送のための船舶の構造及び設備に関する国際規則; IC50 - 50%阻害濃度; ICAO - 国際民間航空機関; IECSC - 中国現有化学物質名録; IMDG - 国際海上危険物規程; IMO - 国際海事機関; ISHL - 労働安全衛生法 (日本); ISO - 国際標準化機構; KECI - 韓国既存化学物質名録; LC50 - 50%致死濃度; LD50 - 50%致死量 (半数致死量) ; MARPOL - 船舶による汚染の防止のための国際条約; n.o.s. - 他に品名が明示されているものを除く; Nch - チリ規則; NO(A)EC - 無有害性影響濃度; NO(A)EL - 無有害性影響レベル; NOELR - 無有害性影響負荷割合; NOM - メキシコ公式規則; NTP - 米国国家毒性プログラム; NZIoC - ニュージーランド化学物質台帳; OECD - 経済協力開発機構; OPPTS - 化学物質安全性・公害防止局; PBT - 難分解性性・生体蓄積性・有毒性(物質) ; PICCS - フィリピン化学物質インベントリー; (Q)SAR - (定量的) 構造活性相関; REACH - 化学物質の登録、評価、認 可および登録 (REACH) に関する規則 (EC) No 1907/2006; SADT - 自己加速分解温度; SDS - 安全データシート; TECI - タイに既存の化学物質のインベントリ; TCSI - 台湾化学物質インベントリー; TDG - 危険物輸送; TSCA - 有害物質規制法(米国); UN - 国連; UNRTDG - 国際連合危険物輸送勧告; vPvB - 非常に難分解及び非常に高蓄積性; WHMIS - 作業場危険有害性物質情報システム

この安全データシート(以下「SDS」という)で提供する情報(以下「本情報」という)は、本書作成時点において、弊社の最善の知識、情報、及び信念のもとで正確であると判断したものです。本情報は、製品の安全な取扱い、使用、処理、保管、輸送、廃棄及び漏洩に関するガイダンスとしてのみ作成されており、いかなる保証又は品質規格をなすものではありません。本情報は、SDS の頭書に示されている特定された製品に関するものであり、当該本製品が他の製品と組み合わせて、又はプロセス中で使用される場合、本文中に言及がない限り、有効にはならない可能性があります。本製品の使用者各位においては、本情報及び推奨事項を適用する場合に、使用者各位の最終製品における本製品の適切な評価を含めて、使用者各位の意図する方法での特定の状況における本製品の取扱い、使用、処理、及び保管について、確認願います。

JP / JA